



新年のご挨拶



病院長 新家 真

新年あけましておめでとうございます。皆様の平成30年のご健勝を心よりお祈り致します。

去年(2016年12月～2017年2月)冬は暖冬でしたが、今年(2017年12月～2018年2月)の冬は地球温暖化の流れで、記録がとられて以来最も平均気温の高かった前年度からの所謂平均への回帰なのでしょうか、それともたまたま黒潮の蛇行のせいなのでしょうか、寒冬のようでインフルエンザ／ノロウィルスの蔓延が心配されます。

日本では今でも習慣的に年度を西暦と年号だけではなく干支十二支でも併記しています。それによると2018年／平成30年は戊戌(つちのえいぬ)となり、所謂いぬ年にあたります。他に有名な干支十二支の年としては、甲子(きのえね)があり、阪神タイガースと高校野球でおなじみの甲子園球場は1924年(大正13年)の甲子の年に竣工したのでこの名前があり、更に60年後1984年(昭和59年)の甲子の年は日本人の平均寿命が始めて世界一(女性80.2歳、男性74.5歳)になった年です。ちなみに2017年／平成29年度での日本人の平均寿命は女性87.1歳、男性81.0歳で男女とも香港(ちょっと意外かも?)に次いで世界第2位で、三分の一世紀の間に男女とも約7年平均寿命が伸びた計算となります。日本の医療がその平均寿命の延長に大きな力を発揮してきた事は間違いない、当関東中央病院もその一翼を(極一部ですが)担ってきた訳です。

さて、当院の平成29年度の事業の大きな目玉として地域包括ケア病棟の稼働開始があります。これは医師、看護部、コメディカル、特にリハビリテーション室の並々ならぬ協力のおかげで無事船出を成功させることができました。将来的に当院の地域医療支援の大きな一本の柱とすべく大事に育てていかなければいけません。世田谷区災害拠点病院の一つとしては、将来的に予想される首都圏のプレート型の大地震に備えるという地域に対する義務があります。これに関しては、3日間は病院の機能を継続できるような施設の耐震化と増強(契約電力と同様量の非常用自家発電装置、受水槽の耐震性向上と容量増加、治療用酸素ガスの備蓄及び滅菌蒸気用小型ボイラーの増強と耐震化、高効率の電気熱源機の新設、計700人分の3日間の食糧備蓄等)を平成29年3月に完成させました。更に、平成30年度事業の大きな目玉として、待望のメンタルヘルスセンター棟が2月末に竣工予定です。元々公立学校共済組合の病院は、公立学校教職員の結核治療を主目的として戦後間もなく全国に8か所設立されたものですが、学校教職員のメンタル問題が大きな社会問題となっている21世紀の現状を重く見た文部科学省が公立学校共済組合に委託する形で具現化したのがメンタルヘルスセンターです。東日本及び近畿の組合員(公立学校教職員)がさしあたっての対象ですが、メンタルヘルスチェックが義務化(平成27年12月1日より厚生労働省により法制化)された地域=世田谷区内の事業所も対象とする予定となっており、当院のもう一つの大きな地域貢献事業となります。更に、従来より懸案事項であった耳鼻咽喉科の常勤医の確保も、平成30年度4月から東大医学部耳鼻咽喉科教室のご協力のもと可能となりました。

「戌(いぬ)」という字は「一の印」と「戈(ほこ)」という字から成り立ち、元々は作物を刃物で刈り取りひとまとめに締めくくることを表す、即ち「戌」は収穫後の段階を示すとされています。2018年／平成30年度は、このように地域包括ケア病棟の発足と首都圏プレート型大地震対策という平成29年度の収穫を刈り終えて、メンタルヘルスセンターの新棟での本格稼働と耳鼻咽喉科常勤医師の確保を控え、世田谷区唯一の地域医療支援病院としての更なる充実を目指して職員一同一丸となって、世田谷区の医療の維持、増強、発展に努めていきたいと思っています。

2018年／平成30年が皆様にとっても素晴らしい1年でありますようにお祈りしつつ、新年のご挨拶とさせて戴きたいと思います。本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

